

科技高 いきものの記

Vol.69 2023.2.1

生物教員 佐藤龍平

10月下旬の話だが、クスベニヒラタカスミカメというカメムシを学校敷地内で多数見つけた。ランニングロード横に生えているクスノキの葉にたくさんくっついていたのだ。淡い色合いがとてもきれいで**なかなかの美麗種**だと思う（前から言っている通り、私はカメムシが大好きだ）。でもこのカメムシ、かなりの厄介者としてここ数年注目されている。クスベニヒラタカスミカメはもともと日本にはいない、**中国原産の外来生物**である。2015年秋に大阪と兵庫で初めて発見され、爆発的に生息地を拡大させて翌2016年には関西全域に広がったことが確認された。天敵がない上に繁殖力が強いことが原因だそうだ。最近では東京の各地でも発見が相次いでいて、つい



クスベニヒラタカスミカメに吸われたクスノキ校内のクスノキのほとんどがこのように葉が黒ずんでしまっていた。もともと日本にはいない虫からの攻撃を受け、クスノキは為す術がない。

にこの学校でも見つかるようになってしまった。
実は**2020年12月にすでにリュウセイが校庭で見つけている**。生物の授業で校庭散策した時、テニスコート横のクスノキから1個体見つけてくれたのだ。**たった5年足らずで関西から東京都東部まで拡大**するなんて、驚異的なスピードだ。ちょうど今、2年生の授業で外来生物を扱っているが、教科書の中だけの話ではなく、身近にも外来種問題は潜んでいるのだ。

このカメムシが食い荒らしてしまう「クスノキ」は、街路樹として当たり前のように生えていて、日本人にとってはとても身近な木だ。巨大な木にまで成長するので古くから神聖視されていて、「となりのトトロ」でもトトロが生息(?)している木として登場し、最近の小説では東野圭吾の「クスノキの番人」の中でも神聖な木として扱われている。生物基礎の授業でも「バイオーム」の単元で、**暖温帯(関東～九州)に生育する常緑広葉樹**の代表例として登場する。言わずもがな、日本を代表する樹木だ。

常緑樹なので普通は冬でも光沢のあるテカテカの葉がついているが、クスベニヒラタカスミカメの被害がひどいと、葉が落ちてまるで落葉樹のように木が裸になってしまうそうだ。**カメムシの仲間はストロー状の口で植物の汁を吸う**。被害にあったクスノキの葉は黒ずんでしまっているのが分かる。校庭のクスノキを調べてみたら、**実習棟の裏やランニングロード側など、ほとんどすべてのクスノキが黒ずんでしまっていた**。

以前にも言った通り、外来生物だって頑張って生きているだけなのだから、むやみに「外来生物＝悪だ!」と考えてしまうのはよくない。しかしこのカメムシのように、生態系に大きな影響を及ぼす種は要注意だ。他にも、最近では桜を食い荒らす外来カミキリムシ（クビアカツヤカミキリ）が関東に拡大中※で、**将来的に春に桜が見られなくなるのでは**と本気で心配されている。

クスベニヒラタカスミカメについては、どの程度生息地を拡大させているのかを専門家が調査中なので、皆さんの家の周りのクスノキの葉が黒ずんでいないか調べてみてほしい。

※クビアカツヤカミキリはまだこの近辺では見つからない。

生息地拡大中の外来カメムシ クスベニヒラタカスミカメ



校庭のクスノキにいたクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi*

おしゃれな色合いがとても美しいが、クスノキを弱らせる非常に厄介な外来生物だ。葉っぱが赤茶色っぽくなっているのはこのカメムシの被害によるもの。



幼虫 触角や脚のフシが膨らんでツヤツヤしている。ユニークな形だ。



ササグモに捕まったクスベニヒラタカスミの成虫 クスノキに群がるカメムシを狙ってクモが集まっていた。